

未来へ、Let's try

薩摩川内市立平佐西小学校 六年 重永 樹里

「かっこいい建物を作るぞ」。
私の自由な発想でレゴの街並みを作る。まず、ブロックの配置を考える。この時が、何よりも幸せなやみの時間。四才から始めたレゴ遊びが、建築デザイナーと言う職業を知るきっかけとなった。

しかし、建築デザイナーになるためにはどうしたらいいのだろう。父に相談してみた。すると、世界で活やくする新国立競技場のデザイナー、隈研吾先生におたずねしてはと提案してくれた。うれしくて心がおどった。はやる気持ちをおさえて、先生の作品集を買い、作品建築物を見に行った。下調べをしながらその日が来るのを楽しみに待った。

先生との面会当日は、とても特別な時間だった。先生は、私の質問に優しくていねいに答えて下さった。特に「デザイナーになるために私がやるべき事」は、私の心にしつかりときざみこまれた。

先生の言葉を形にしたいと思った私は、帰宅後すぐに、夢についてのマンダラートを書いてみた。夢を実現するためのマスト目は、習い事、中学受験、パリ留学などお金がかかるものが多かった。だがどれを取っても私には欠かせないことだ。次に、夢をかなえる方法を調べてみた。

建築デザイナーは、特別な資格や試験は要らない。デザインの世界で何よりも必要なのは、その人の感覚や意識なのだ。教えていただいた。だから、それをみたくために、有名な建築物や美術館を見学したい。本物を自分の目で確かめに行きたい。私は美術大学の建築コースに進学する。少しずつ、夢に向かって進むべき私の道が見えてきた。

夢のために今の私が最もやるべき事。それは中学受験だ。勉強は大変だけど、私には大きな目標があるから大丈夫。つかれた時には、先生のサイン入り作品集

のお守りもある。先生との出会いで私の迷いはすっかり消えた。

先生が教えて下さった大切なこと、「やってみる。食べてみる。行ってみる。全て、チャレンジ精神がデザインの基本だ。」

そう、先生はおっしゃった。チャレンジをする前に、好ききらいを言うのはもったいないことだと教えて下さった。先生は最後に、私がデザイナーを目指して学ぶ経験はどんなことでも成長につながる。さらに、かたをたたいて勇気を下さった。

私の町は、豊かな自然と歴史と最新技術が調和した素晴らしい町だ。しかし、空き家が多く、くちていく建物をただ見ていると悲しくなるのだ。私は、空き家を活用しだれもが安らぐ場所を造りたい。空き家が生きいきと生まれ変わる姿を見たい。その時が、おしめない協力をしてくれる家族への恩返しだと思う。

私は、あるがままの自然と、デザインされた人工物の両方の美しさを活かせる人になりたい。この発想が形となり、この町の人々の役に立てる日がきつと来ると、信じている。

のライフプラン

将来なにになりたいか? **建築デザイナー**
その理由: **だれもが楽しく暮らせる町づくりをしたい**

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2022年	12(小6)	私立中学の受験に向けて、勉強に力を入れる。	習い事(塾、英語)
2023年	13(中1)	中学入学 美術部に入る レゴクラブを作る	習い事 授業料、入学金
2024年	14(中2)	英語に力を入れる	建築物・美術館めぐり
2025年	15(中3)	英語検定に挑戦する 目標2級合格	
2026年	16(高1)	立体の勉強などを頑張る	入学金
2027年	17(高2)	大学入学準備	ホームステイ アメリカ
2028年	18(高3)	留学準備	
2029年	19(大1)	フランス留学(建築学)	留学費用生活費 授業料 入学金
2030年	20(大2)	建築事務所でバイトする	美術館めぐり
2031年	21(大3)	建築デザインのコンテストに参加する	建築物めぐり
2032年	22(大4)	日本の三菱地所への就職準備	世界遺産めぐり
2033年	23	オリンピックの建築物コンテストへ参加	勉強旅行費
2034年	24	隈研吾先生にすすめいただいた ブラジル・テンマーク旅行	
2035年	25	ロンドン旅行	
2036年	26	隈研吾先生の事務所に入り、 先生の助手をする	
2037年	27	世界万博 建築物コンテストへ参加	
2046年	36	独立して自分の会社をつくる 薩摩川内市の空き家と生きいきとした姿を創り出す	

※最後の行は、荷歳の時にどうなっていたいか、自分で好きな年を入れてみましょう!